



『苦難にはかならず神様のご計画があります。』

聖書本文：ヨブ記2章7-13節/ 暗唱:ヨブ記23章10節

説教：鄭南哲牧師

(Rev. Jung nam-chul)

愛する信仰の家族のみなさん！先週からクリスマスまでの4週間をアドベントと言いますが、この時をこの地に來られたイエス・キリストの恵みと愛をもう一度黙想しながら12月一ヶ月も主の恵みが溢れますよう主イエス・キリストの御名によって祝福しお祈り申し上げます。アーメン！

良く聞かれる質問だと思いますが、なぜ義人が苦難を受けなければならないのですか？そして、反対に、不義、不正を行っている人々はなぜ堂々と生きているんですか？日本の作家である遠藤周作（えんどうしゅうさく）が書いた『沈黙（新潮文庫）』（17世紀の日本の史実・歴史文書に基づいて創作した歴史小説。1966年に書き下ろされ、新潮社から出版された。江戸時代初期のキリシタン弾圧の渦中に置かれた光景をポルトガル人の司祭を通して話している、最後にはイエスキリストは沈黙していたのではない。お前たちと共に苦しんでいたのだと悟られる）という小説をとおしてこのような質問をしました。ドイツのヒトラーの政権の下でユダヤ人たちが虐殺されるときも多くの人がこのような質問をしました。神様が本当に生きておられるなら、なぜこの苦しみと不義の歴史において沈黙しているのか？と叫びました。

我々が信じる神様は本当に正義の方でしょうか？聖書をさかのぼって行くとこの質問をした最初の人ヨブでした。なぜ義人が苦難を受けなければならないのか？問いかける我々に解答として与えられた本がまさにヨブ記という聖書です。みなさんもよくご存知ですが、始めから申し上げますと、義人にも苦難があります！そして、苦しい苦難にはかならず神様のご計画と摂理があります！

<1. ヨブ記について>

まずヨブ記とはどんな聖書なのか考えて見ましょう。ヨブ記とは詩篇、箴言、伝道者の書、雅歌とともに旧約の詩歌書（しいかしよ）に属する聖書です。ヨブ(Job)の名前の意味は‘憎まれる者（ヘブル語:アエブ）・悔い改める者・願う（アラブ:アバ）’意味であります。ヨブは族長時代の事実人物（創世記）であります。ヨブ記は1-2章が序論に、3章-42章6節まではヨブ記の本論であり、最後の結論が42章7-17節までであります。このヨブ記(42章)では神様を真実に信じていたヨブが思わぬ、受ける苦難と苦しみの日々の中であっても神様を裏切らず、真実に神様を信じ、頼る内容と苦難の中でなぜ義人が苦難を受けなければならないのかを問いかけています。

<①信仰の人、義人の金持ちだったヨブ>

ヨブはウツという地で住んでいた敬虔な義人でした。1章1節に、ヨブがどんな人だったのかを明かしながら始まっています。聖書の始まりに一人の人間についてこれほど大きい称賛で始まる本はありません。彼が住んでいたウツという地はエドム（創世記36:28, 哀歌4:21）ですが、いまのイラクとサウジアラビアの国境地帯にあるところです。彼が住んでいた時代は確実ではありませんが、アブラハムやイサクが住んでいた族長時代にみなされます。エゼキエル書14章14節を参考にと彼は実際の人であったことが分ります。

大切な事実ヨブは正しく、信仰にあつて敬虔な人であったことです。1章8節によると、ヨブを試みようとするサタンに神様はこう言われました。“主はサタンに仰せられた。「おまえはわたしのしもべヨブに心を留めたか。彼のように潔白で正しく、神を恐れ、悪から遠ざかっている者はひとりも地上にはいないのだが。」”

そして、2章の2節、3節にも同じくヨブについて評価しています。神様は二回もヨブの信仰と敬虔な生き方を認めて下さいました。神様はヨブを“わたしのしもべ(my servant)”と言いました。これは神様の特別な認定を意味します。人には認められやすくても神様に認められると言うことは決して容易いことではありませんが、彼の義と敬虔な生き方がどれだけ誠実だったのかが分ります。

そして、ヨブの信仰が神様に認められただけではなく、ヨブは大金持ちでした。

1章3節によると、“彼は羊七千頭、らくだ三千頭、牛五百びき、雌ろば五百頭、それに非常に多くのしもべを持っていた。それでこの人は東の人々の中で一番の富豪であった。(ヨブ1:3)”当時、家畜は富の象徴でした。そして7人の息子と3人の娘のお父さん(1:2)でした。神様から認められた信仰の人だったのみならず、恐ろしいほどの富をもっていたということは彼は実にすごい人であったことが分ります。しかし、ヨブはこの富にもあまり欲張らず、心も置かなかった人でした。31章24節と25節をみてください“もし、私が金をおのれの頼みとし、黄金に向かって、私の抛り頼むもの、と言ったことがあるなら、あるいは、私の富が多いので喜び、私の手が多くの物を得たので、喜んだことがあるなら、”なのに、このヨブに試練が訪れました。

<②ヨブの初試練>

ある日、サタンはヨブを試みます。神様はヨブを潔白で正しく、神を恐れ、悪から遠ざかっている者だと言った時、

サタンは “ヨブが何の理由もなく神様を信じるわけがありません。神様が彼に富を与えたので、神様を恐れているのです。彼の持っている財産を奪い取って見て下さい。彼はきっと神様をのろうでしょう” (9-11)
この本文によるとサタンは実際存在し、活動していたことが分ります。同時にサタンはあくまでも神様の支配の下にあって、神様の許される範囲内でのみ動いていたことも分ります。
そういうわけで、ヨブに突然大きい試練にあいます。一瞬、彼の10人の子どもたちが事故で亡くなります。そして、持っている財産も全部失ってしまいます。これが1章13節以下の内容です。
しかし、それにもかかわらず、ヨブは神様から離れることも、のろうこともしませんでした。むしろ、彼はこのように告白します。1章21節です。 “「私は裸で母の胎から出てきた。また、裸で私はかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。」” ヨブは大切なものをすべて失ってしまったその瞬間にも神様を捨てませんでした。これが1章の内容です。

＜③ヨブの二つ目の試練＞

それだけではなく、サタンはふたたび、ヨブを試みます。サタンはヨブが健康が失えば、かならず、神様をのろいながらはなれるだろうと言いました。神様はそのサタンの試みさえも許されました。しかし、ヨブの命だけはさわるなと言われました。
すぐさま、ヨブの体に大した苦しみが訪れます。2章7節によると、足の裏から頭の頂まで悪性の腫物ができてその痛みと苦しみはどれだけひどかったのか分りません。3章からヨブの苦しみが記録されています。そんなひどい苦しみの中にいるとき、ヨブの妻まで神をのろいながら死ね(2:9)と行って出て行ってしまいます。ヨブの大切な3人の友達である、エリファズ、ビルダデ、ツォファルが訪ねてきましたが、ヨブであることが見分けられないほどひどくなくなっていました。4章には信じていた友達でさえも心から慰めてくれることもなかう、むしろ、あなたの罪から生じた結果だと言いながら、ヨブに罪の告白をしとむりやり強要します。

ヨブ記をとおして、我々の気を引くことはヨブは最後まで神様を信じ、信頼したと言うことです。彼は一瞬、すべての財産を失い、理由もなく大きく苦しめられましたが、神様を信じ、最後まで神様から離れませんでした。たえず、繰り返される肉体的、精神的、霊的苦しみの中でも、最後まで真実に神様をみあげ、忍耐するヨブの姿が書かれています。これがヨブ記を記録された神様の大切な目的です。

＜2. なぜ信仰をもって誠実に生きる者にも苦難はあるのか?＞

そして、ヨブ記ではなぜ神様をちゃんと信じていて正しく生きていた人が苦難を受けないといけないのかを問いかけています。人間の観点からみて苦難には三つの種類があります。
一つはイエス・キリスト、つまり神様のための苦難があります。これは苦難の理由がはっきりとしています。信仰を守るための苦難です。クリスチャンらしく生きるためにはこの世での苦難は避けられないかもしれません。不義の時代に信仰によって生きようとするとき、苦難を受けなければならない時もあります。

二つ目は、自分の過ち、自分の罪のため招いた苦難があります。
自分の欲のため、どうしても抑えられなかった欲望のため招いてしまった苦難です。

三つ目はわけも分らず受ける苦難もあります。なぜ、自分が苦難を受けているのかまったく分りません。正しく生きてきたのに、主のために生きているのになぜ、こんなにつらい苦難が来るのですか?ヨブが受けた苦難がこのような苦難でした。それで、ヨブは苦しい中で、このように質問します。神様は善であり、全能なる方なのに、なぜ正しい人も苦難を受けなければなりませんか?神様を信じ、敬虔に生きようとする人になぜ苦難があるのですか? 反面、神様を侮って、他人に悪を行う人々はうまくいって、平安でいられるのはなぜでしょうか?と問いかけたのです。人間は苦難の理由を全部分りませんが、神様はすべてご存じです。
確かな事実は苦難の形がどうであれ、その苦難が許されたことには神様のご計画があることを忘れてはいけない事をヨブ記は教えています。

愛する信仰の家族のみなさん! 苦難はかならず、罪や悪に対する処罰（しょばつ）のためだけではありません。人間の過ちや罪から来る苦難もありますが、ヨブのように義の人も苦難を受ける場合もあります。ヨブ記31章を見て見て下さい。ヨブは神様の御前で徹底的に信仰によって生きてきたと告白します。
若い女に目を留めたこともないし(31:1), 寄る辺のない者の望みを拒んだこともないし、目の前にいるやもめのような大変な人々を助けなかったこともないし、(16節), 光る日をみて、それに拝んだこともありません(26節)。自分を憎むものを憎みませんでした(29節)。正しいはかりで私を量ってみたら、神様は私の潔白を分かって下さるでしょう(31:6)と告白します。
それにもかかわらず、彼にも苦難がついてきました。神様はヨブのような義人にも苦難を与えると云う事を表しながら、苦難はかならずしも罪に対する処罰ではない事をも表してくれます。

むしろ、ヨブ記をとおして、苦難をとおして、我々の信仰がもっと強められる事を表してくれます。(ヨブ32-37章).

苦難をとおしてもっとへりくだらされ、もっと神様を頼るようになり、もっと信仰が純粹にされます。苦難を通ったヨブの信仰はどうされたのでしょうか？**ヨブ記23章10節，42章5節**ヨブの信仰告白をご一緒に読んでみましょう。

“しかし、神は、私の行く道を知っておられる。神は私を調べられる。私は金のように、出てくる。”

“私はあなたのうわさを耳で聞いていました。しかし、今、この目であなたを見ました。”

愛する信仰の家族のみなさん！苦難には神様の摂理があります。苦難にあったとき、この苦難の中にはかならず神様の確かなご計画があることを覚え、信じてください。旧約のヨセフ(創世記37-50章)がそうではありませんか。彼は突然の苦難の意味を分りませんでした、のちになって神様の御民を助けるためであったことが分りました。(45:7-8)

むしろ、神様の栄光のための苦難もあります。イエス様が道を通る時、生まれつきの目の見えない人がいました。弟子たちはイエス様に聞きました。この人の目が見えないのは誰の罪のせいですか？自分の罪のためですか、それとも親の罪のためですか？(ヨハネ9:1-2)弟子たちは罪の結果だと思い込んでいました。しかし、イエス様はこのように答えました。“それは自分の罪も、親の罪でもないのだ。彼によって神様がなそうとする事を表すためなのだ。(ヨハネ9:3)”つまり、目の見えなかった人の苦難は神様の栄光のために与えられたわけです。

＜3. 新しくし、回復させてくださる神様＞

ヨブの話が苦難で終わってしまうなら、とつてもくやしく、不公平だと思うかもしれません。

しかし、覚えなければならないことは苦難の中であつても神様は我々を導き、耐える力と信仰と避ける道をも備えて下さるということです。第一コリント10章13節にこう書かれています。“あなたがたの会った試練はみな人の知らないようなものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを耐えることのできないような試練に合わせるようなことはなさいません。むしろ、耐えることのできるように、試練とともに、脱出の道も備えて下さいます。”

ヨブ記を通して神様はヨブを苦しみのままさせないで、癒し、回復して下さいました。

ヨブ記42章12節以下を見て見て下さい。神様はヨブに以前の財産より二倍に回復させてくださいます。羊1万4千頭、らくだ六千頭、牛一千くびき、雌ろば一千頭を持つ事になります。そして、ふたたび七人の息子と三人の娘を産ませ、140年長寿しました。神様は家族を取り戻してくださり、彼の所有も回復させてくださいました。(42:10-15)そして、長生きすることも許してくださいました。神様は一時的に苦難を許しますが、最後まで神様を信じる者を永遠の涙と恥のままさせる方ではない事を覚えて下さい。

＜ヨブ記の教訓＞

もう一つだけ申し上げて終わりたいと思います。すべての所有と財産を全部失った時、ヨブの信仰の態度はどうでしたか？1章6節にも、2章1節にも“ある日”という言葉が繰り返されています。これは予想もつかなかった苦難の始まりを言っています。ヨブは予想も、思いもしなかった日に起こったということです。彼に吹いてきた不幸は瞬間的でした。どんなにくやしく、もどかしかったのでしょうか？それにもヨブは神様を恨みませんでした。むしろ、どう言っていますか？“私は裸で母の胎から出て来た。また、裸でかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。(ヨブ1:21)”

不幸においても神様をほめたたえました。ヨブの妻でさえ、見ていられないほどのヨブの苦しみと肉体の痛みをみながら、神をのろって死ねと言われた時、ヨブはこう言います。“私たちは幸いを神から受けるのだから、わざわざいをもうけなければならないではないか？(ヨブ2:10)”

苦しみは誰にでも訪れると言うことは同じです。しかし、苦しみに向かう人の信仰の態度はみな同じではありません。ある人はわずかな苦しみ会っても神をのろって侮ります。しかし、ヨブはきわめてひどい苦しみにおいても忍耐し、神様を賛美しました。ここに大きい違いがあります。ヨブ記は新約で一度引用されました。それが**ヤコブの手紙5章11節**です。

“あなたがたはヨブの忍耐のことを聞いています。”と言われながら一つ教えているのが、**ヨブの信仰の忍耐**です。我々はほんの少しだけの苦しみがあるとすぐ神様を恨んだり、神様への信仰が揺さぶりやすくなりますが、忍耐をしなければなりません。信仰によって正しく生きていても苦難はやって来る時もあります。

私たちはその理由を分らなくても神様はご存知です。神様は我々の有益のために時には苦難をも許されます。その苦難にも神様のご計画があります。この地に来られたイエス・キリストも我々の罪を赦し、救うために十字架の苦難を受けるために来られました。

アドベント（待降節）を迎えている我々に必要とされることがあれば、それは苦難の中にあつても変わらない信仰、いのちのある限り最後まで主を信頼する信仰です。主の誕生を迎えるこのクリスマスのシーズンもう一度主への信仰を確かめ、変わらぬ信仰を握って主とともに歩むクリスチャンプレイズチャーチのみなさんとなりますよう主の御名によって祝福します。アーメン！